

水野忠直奉献灯籠

本丸庭園南側の石灯籠は、松本城主水野忠直（1652-1713）が東京の寛永寺に寄進したものである。1681年、徳川4代将軍家綱の菩提を弔うために寄贈された。1953年、同寺から購入した住職が松本に持ち帰り、現在に至っている。

戸田家石灯籠

本丸庭園の外周には、3基の石灯籠と手水鉢が飾られている。元々は、1617年から1633年、1726年から1869年にかけて松本城を支配した戸田家の江戸（現在の東京）の屋敷の敷地内にあったものである。

小笠原牡丹

本丸庭園の白牡丹は、500年近い歴史を持つ。1550年、松本地方は小笠原氏の支配下にあったが、戦国武将・武田信玄（1521-1573）が南東から攻め入る動きを見せていた。小笠原長時（1514-1583）は逃亡を決意するが、大切にしていた白牡丹を兎川寺に移し、保存した。その後、寺の檀家が牡丹を管理・増殖し、そのうちの一人が現在の城の庭を飾る花を寄贈している。

駒つなぎの桜

本丸庭園の桜にまつわる城の伝説がある。1590年代、石川康長（1554-1643²）が加藤清正（1562-1611）を松本城で歓待した。その際、康長は清正に2頭の名馬のうちの1頭を贈ろうとしたところ、清正が2頭とも連れ帰ったことは有名な話である。

清正は出発前にその馬を桜の木に繋いだと言われており、現在の駒つなぎの桜はその伝説の後継者である。